

米山奨学ボックス

山本 賢君 米山奨学委員会です。今年は例年の倍を目標としておりますので、ご支援、ご協力お願いいたします。明日 31 日に三条東 RC の米山奨学生 ロン・チャンターさんと一緒に JHP (JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER) 学校をつくる会 (代表 小山内美江子氏) の 15 周年記念祝賀会に出席してまいります。

卓 話

堀田正弘会員

「悩んだ分だけ、きっと良くなる」



三条北ロータリークラブ
さんに入会させて頂き初
めての経験の経験の中で
私自身この 4 ヶ月の間、
戸惑う事ばかりだったよ
うに思います。そんな中、

初めてお会いする皆さんからはいつも楽しく
接していただきました。ホントにありがと
うございました。

今日は改めて私自身の自己紹介をかねて内装
という、今井 克義の仕事との出会いとその
中にあるインテリアやデザインに対しての思
い入れみたいなものをせまい経験の中からで
すがお話させて頂く事にしました。ヨロシク
お願いします。

私は旧西蒲の巻町の出身です。

会社は巻潟東インターを降りたバイパス沿い
にあります。仕事は内装の施工会社をベース
に Dig という my made というデザイ
ン室をあわせたショールーム兼事務所が私の
仕事場になっています。今の私の日常の仕事
は、主に住まいの設計やインテリアの提案業
務をやっています。毎日、予算やコストを相
手に格闘しながらリフォームや家作りのお手
伝いをさせて頂いています。

手前みそですが、そのガラス張りのショール
ームは、辺りが緑の植栽に囲まれた所でコー
ヒーなんか飲んで過ごすにはちょっと気持ち
のいい場所だと思います。もし近くに来られ

ることがありましたら、是非寄ってみてくだ
さい！

3 名の可愛いお姉さんと (好みは別として?)
愛犬のゴールデンレトリバーが愛想良く出迎
えてくれるはずです。

私はこの仕事に就いて約 26 年になりますが、
当初は一生の仕事になるとは、全く考えてい
ませんでした。

高校を卒業した当時は、50 年代初めの頃で
当時はまだインテリアなどという分野は、新
潟では確立されていない時代でした。

その頃は家具の職人になりたいという思いが
ありまして知人の紹介で上越の高田に大町と
いう古くからの職人町がありますが、その
老舗の家具屋さんに住み込みで見習いに行く
事になりました。当時でもまだ大町という所
は、本当に昔ながらの職人町の風景が色濃く
残っていたように思います。昭和の 50 年代
なのに隣の塗装屋さんの店先に「ぬしや」?
という古い看板が掛かっていたりしてました。
正直言って田舎から少しは都会へと思っていた
私にとっては何か逆にタイムスリップして
しまったみたいで凄く暗い気分でしたのを、
今でも覚えています。

でも実の所は当時はもう家具を作る事もほと
んどなくそこのおじいちゃんが、屋根裏の作
業場みたいな所で古い切りタンスの洗濯なん
かしているような!? そんな所でした。

でもそのおじいちゃんには凄く可愛がっても
らいました。「笑い話」になりますが、時折 (上
越弁で)「堀田君おまんにいいものをみせてあ

げるし！」なんて作業場の奥でこっそりと、当時でも、もう珍しいくらいの8ミリ映画というか？色々モザイクの技術は当時まだなかったように思います？？本当に大人にして頂きました！。そんな中ですが、唯一自信が持てたのは1人で大きなタンスを2階とか3階とかでも持ち上げられる様になった事です。タンス職人じゃなくて、タンス運び職人技です！

そんな訳で結果上越に居たのは、たったの約1年半位だったと思います。ただその中でたまある一時期ですが、そこの知人の長野の建築家の自宅の新築工事の手伝いをさせて頂く機会がありました。(当時の長野では有名な人だったと思いますが？) 今から30年も経つのにその建物の景色は今でも鮮明に覚えています。素晴らしい建物でした。善光寺の裏の山手の斜面に建ったのですが、まずエントランスとアトリエが3階にあり、2階にプライベートスペースそこを全体に吹き抜けて下りた1階にパブリックスペースがあり、その斜面から中空に向かってオープンテラスがありバーベキューコンロまで設えてありました。19才の私にとっては、目眩がするくらいの感動だったのを今でも覚えています。又その上、各変形のフロアーに全面にウィルトンという羊の粗毛(バージンウール)を使ったカーペットを敷き込んでいくわけですが、その職人さんが凄くカッコ良くて。当時カーペットの職人さんも特殊な施工が出来る人が長野にもあまり居なかったのかも知れません。カーペットのジョイントが手縫いの最後のころかもしれません。東京から出張して来てもらった職人さんの、その手さばきのキレイさはマジックでも見せられているような、当時の私にとっては、まるで檜舞台で演じる役者さんみたいにも見えていました。ただただ感動の一言です。その約2~3ヶ月の長野での経験は、その後の私の人生にとって大きな出来事として残ってきました。後にも先にも実は唯一プロの職人さんを通して内装工事とい

う仕事に係わった、たった一度の経験になりました。その後地元に戻ってきて、やりたい事も見つからず、その頃はまだこの道に進もうなんて全く考えていませんでした。

その後50年代半ばくらいからでしょうか、住まいの内装やインテリアについて少しずつ関心を持たれるようになってきました。もともと職人さんや特に建築や物づくりに対する憧れもありましたから決心すると案外すんなりこの道で行こうと決め、あまり悩まなかったように思います。24才の頃、とりあえず建築士の資格を取ってスケッチブック1冊を持って、1人で始めて。ただ職人としては、専門職としての勉強もした事がないままで見た事があるというだけでした。(長野の記憶？) 100%我流で見よう見真似で、今振り返ると恥ずかしい事が沢山あります。最初の1人目の社員さんなんかは、「社長うちだけ違うことしているみたいに思うんだけど？」なんて「プロの職人さん」と職場で会うのが凄く怖かったですね。でも運が良かったというしかありません！

それから、あちこちつまずきながら今年で約26年になります。それから、あちこちつまずきながら今年で約26年になります。

現在はお陰様で我流を通して、我流で育てた社員職人さんが15名、ショールームと事務所で4名、設計、デザイン室が1名。自分の器の分、大家族主義モットーに。個人カンパニーですが、生活提案をベースにやっています。唯一、ちょっと自慢出来る所があるとしたら、いまだに社員、職人さんが最初の1人から現在まで1人も辞めた事がないという事くらいでしょうか？

みんな良く我慢してくれるな~と思います。いつも後ろ姿に手を合わせていますけど(合掌)

次に建築やインテリアの提案という仕事について少しお話します。近年、建築やインテリアに対する関心が以前にも増して高まっています。素材やデザイン、色のバリエーション